

雪下ろしの負担を減らす“克雪住宅”で 冬でも快適な暮らしを

克雪住宅普及促進事業補助金ガイドブック

快適だニャ

補助金を活用して
雪下ろしの不安を解消しよう!

そうだ
ワン!



屋根の雪下ろしは危険!

毎年約30人が屋根の雪下ろしに関わる事故で亡くなっています。

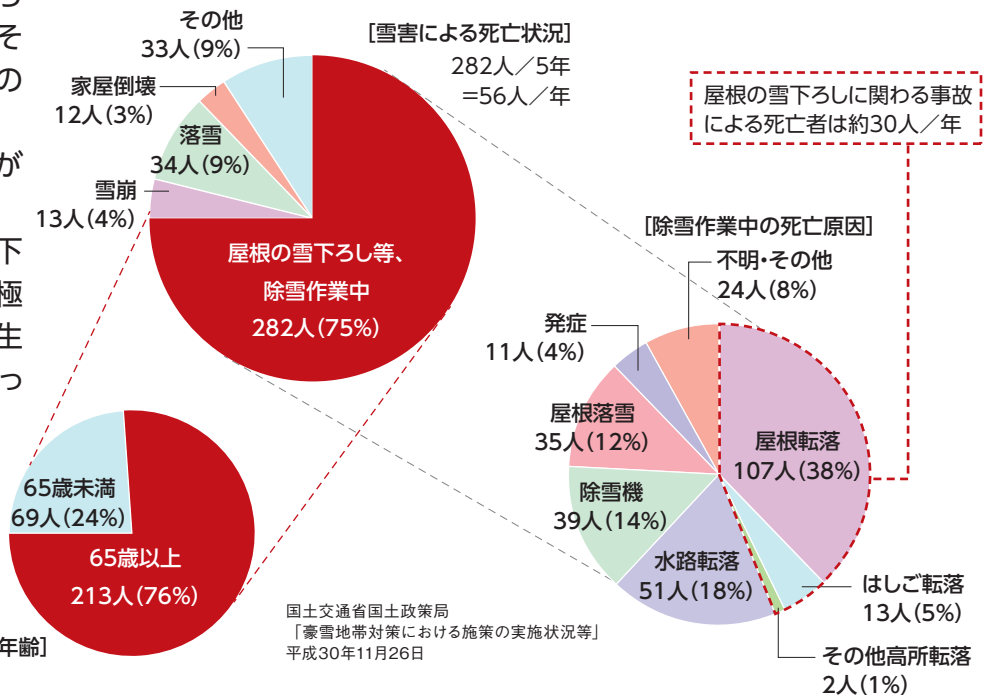
過去5年間の雪害による死者のうち、75%が屋根の雪下ろし等の除雪作業中であり、そのうち44%が、屋根等からの転落によるものです。

また、年齢で見ると76%が65歳以上の高齢者です。

豪雪地帯特有の屋根の雪下ろしは、死亡事故につながる、極めて危険な作業であり、冬期生活における不安のひとつとなっています。

過去5年間の雪害による死亡事故発生時の状況

※人数はH24~28年度の全国死亡者の5分年の合計



長野県と雪

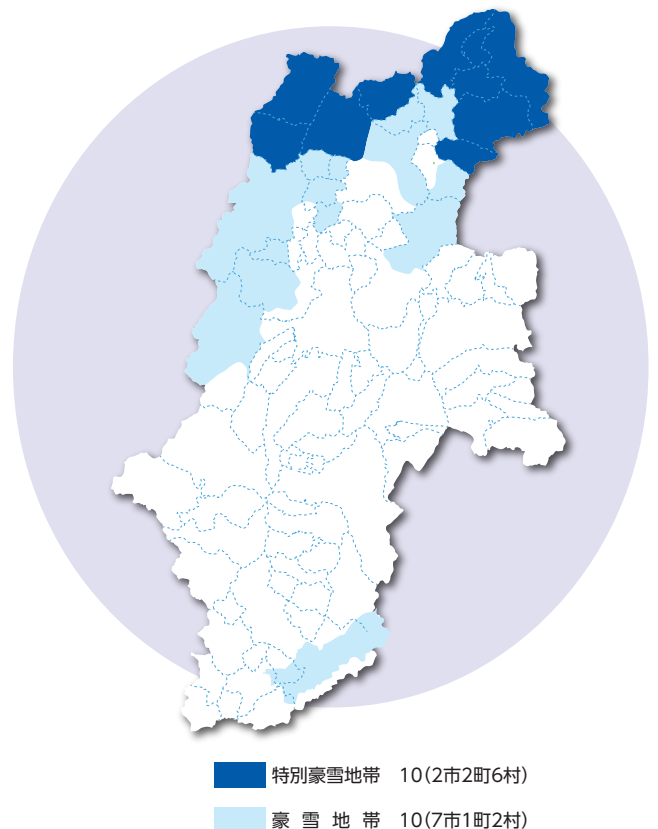
縦に長い長野県は地域によって積雪に違いがあります。

長野県は内陸特有の気候で、一日のうちで最も高い気温と最も低い気温の差や、一年のうちで最も高い月の平均気温と最も低い月の平均気温の差が海岸地方に比べて大きい地域です。

県北部は季節風の影響で雪の日が多く、北部県境は3メートル近い積雪になることもあります。中部や南部の平地は季節風が山脈を越えてくるため空気が乾燥し、晴れの日が多く積雪も30センチ程度です。同じ県内でも地域によって積雪量が大きく異なるのが長野県の特徴です。

長野市(一部特豪)、上田市(一部豪雪)、須坂市(一部豪雪)、中野市、大町市(一部豪雪)、**飯山市**、松本市(一部豪雪)、飯田市(一部豪雪)、安曇野市(一部豪雪)、松川村、**白馬村**、**小谷村**、**高山村**、**山ノ内町**、**木島平村**、**野沢温泉村**、**信濃町**、飯綱町、小川村、**栄村**

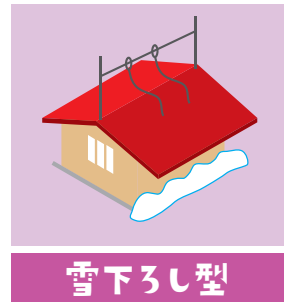
長野県内の豪雪地帯



雪に強い克雪住宅にしよう

克雪住宅にすることで、冬でも雪処理の負担が軽減されます。

雪下ろしを不要とする、または、雪下ろしを安全に行うことができる克雪住宅とするための工事は、補助金の対象となっています。豪雪地帯でもより快適に安全に生活できる克雪住宅をぜひ検討してみましょう。



雪おろし、どうしていますか？

屋根の雪下ろしを行う場合は安全対策を万全に行いましょう。

雪下ろしの事故は、雪下ろしの前後10分間が最も多いといわれています。特にはしごの昇り降り・雪下ろしが終わった後のふっと気が抜けた瞬間が危険です。最後の最後まで気を抜かず注意深く行うことで事故を防ぎましょう。

屋根の形状を確認

事前に屋根の状況(雪止めの場所やどこにはしごをかけるかなど)をしっかりと把握しておくことが大切です。業者をお願いする場合は降雪前に、屋根の状況を説明しましょう。また雪止め等の劣化の点検を行いましょう。

1人ではやらない

2人以上で声を掛け合って雪下ろしをしましょう。それが難しければ、隣の家に雪下ろしをすると一声かけて始めましょう。

できれば午前中に

屋根の雪は気温が上がったり太陽の光に当たると緩んできます。できるだけ午前中の早い時間に始めましょう。

装備はしっかり

上着は汗を逃がし色が目立つものを。足元は長靴。ヘルメットをかぶり安全帯とアンカーをロープで繋ぎましょう。

雪下ろし作業の
前後10分間が
一番危険!



脱着が簡単な安全帯
作業高さにより、適切な安全帯を使用しよう
(参考:落下防止用器具の安全な使用に関するガイドライン)



はしごの角度は75度

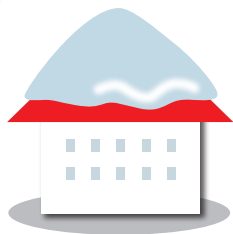


雪下ろしに特化した装備がついたはしごも販売されています



取材・撮影協力 / 鬼無里ブライドプロジェクト

※雪下ろしの作業には危険が伴います。作業時は転落防止のため、命綱(安全帯)を固定する設備(アンカー)の設置が不可欠です。作業を業者等に依頼する場合も、設備がない場合は引き受けていただけません。



克雪住宅の種類と補助金

補助金の対象となる克雪住宅は下記の3種類です。最近では新技術の開発や材料の発展とともに、より雪に強い快適な住宅を建てることができます。また新築でなくても、リフォームすることで雪への対策をとることもできます。

	融雪型	自然落雪型	雪下ろし型
住宅の概要	<p>熱エネルギーの利用により屋根の雪を融かします。</p> <p>電熱、温風、温水、ヒートパイプにより加熱</p>	<p>雪を人力にたよらず落下させます。</p>	<p>命綱固定アンカーを設置することによって、転倒を防止します。</p>
敷地面積の制約	なし	あり(推雪場)	あり(推雪場)
工事費	中 参考工事費:約4万/m ²	中 参考工事費:約3万/m ²	小 参考工事費:約12~15万円
維持費	大 参考維持費:約11~24万円/年(燃料費等)	小 参考維持費:0円(定期的な塗り替えは必要)	小 参考維持費:0円(定期的な点検は必要)
補助条件	新築・増改築・改修	改修のみ	改修のみ
補助率 ^{*1}	対象工事費の1/5 【高齢者世帯等 ^{*2} は1/4】	対象工事費の1/5 【高齢者世帯等 ^{*2} は1/4】	対象工事費の1/2
補助上限額	60万円 【高齢者世帯等 ^{*2} は75万円】	45万円 【高齢者世帯等 ^{*2} は55万円】	8万円

克雪住宅普及促進事業補助金 令和元年度時点

※1 お住まいの市町村によって、補助制度が異なります。

※2 生計の中心となる者が60歳以上の世帯のほか、母子及び父子世帯などです。詳細は県および各市町村の要綱をご確認ください。

この他にも、屋根上に載雪しておく耐雪型(補助対象外)があります。

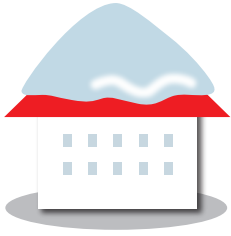
住宅の計画にあたっては、「雪に強い住まいづくり」平成18年12月 長野県も参考にしてください。

<https://www.pref.nagano.lg.jp/kenchiku/kurashi/sumai/shisaku/yuki.html>

対象となる
地域

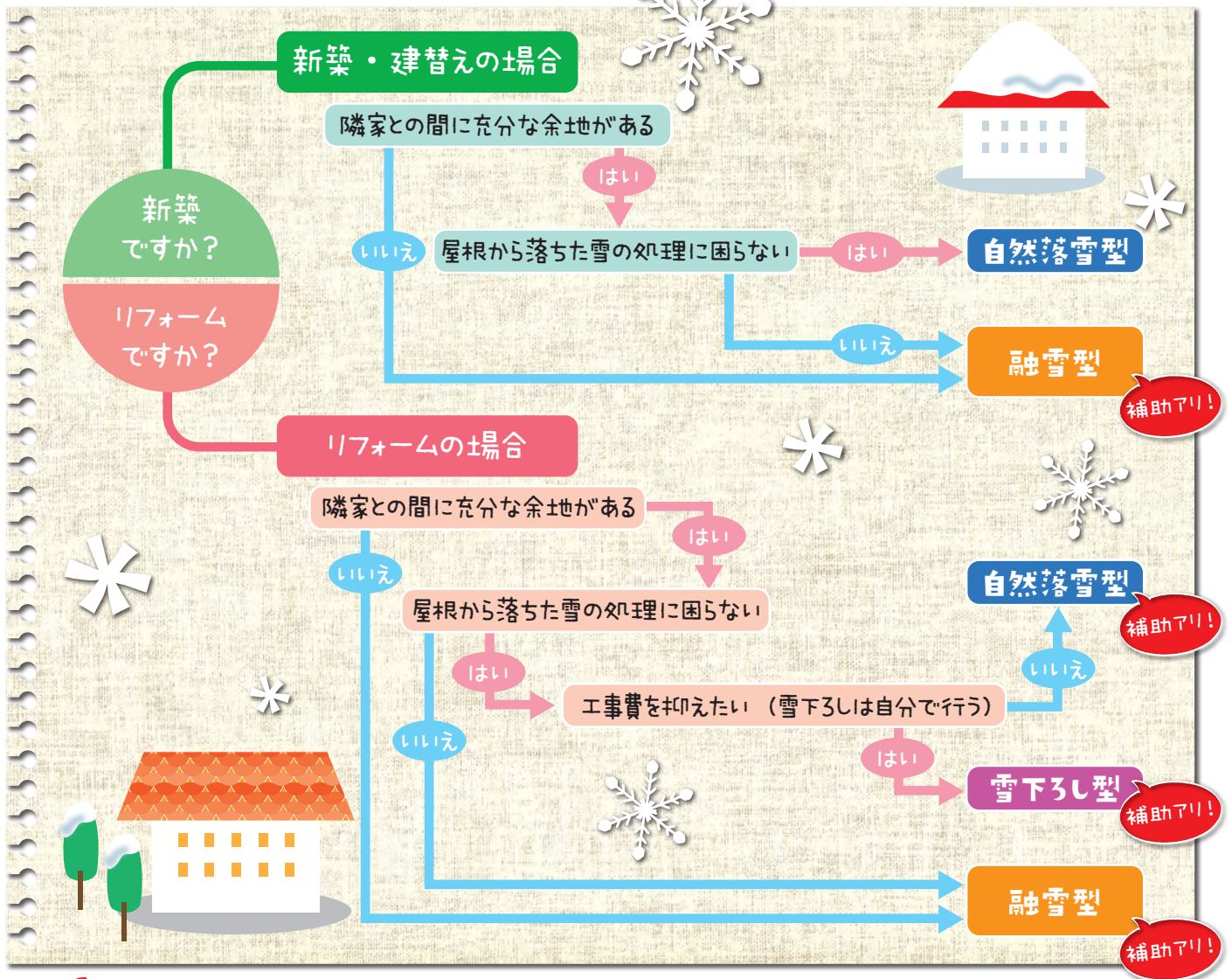
特別豪雪地帯指定市町村

(飯山市、白馬村、小谷村、高山村、山ノ内町、木島平村、野沢温泉村、信濃町、栄村)



あなたにオススメの克雪住宅は？

たくさんある克雪住宅の中から、あなたの暮らしに合った住宅はどれなのか、チャートで確認してみましょう。実際に工事を行う際は、工事を行う工務店等と相談し、それぞれの長所・短所を理解した上で工事を行ってください。

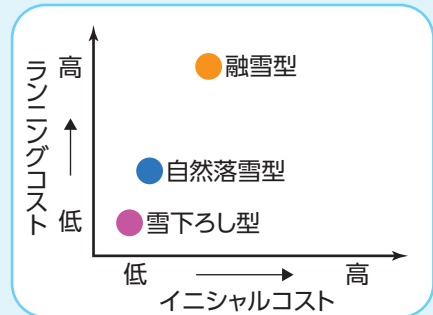


ランニングコストも克雪住宅の決め手に!

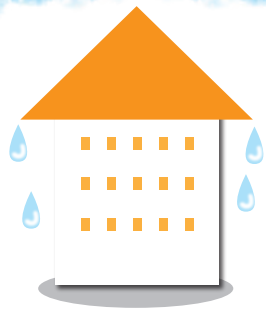
克雪住宅は、その種類によってかかる費用やランニングコストが違います。それぞれを比較検討することで、自分にあった住宅のスタイルが見えてくるはずです。

- 融雪型は、他の方法に比べてランニングコスト（運転費・維持管理費）がかかります。設置を検討される際は、運転費のシミュレーションをしておきましょう。
- 自然落雪型は、融雪型よりもランニングコストはかかりませんが、定期的な屋根の塗り替えが必要となります。また、落ちた雪の処理方法を考えておく必要があります。
- 雪下ろし型は、イニシャルコスト、ランニングコストともに最も費用がかからない方法ですが、雪下ろしをする必要があります。

方式によるコストの比較(イメージ)



雪を融かして快適に〈融雪型住宅〉



融雪型住宅とは

融雪型住宅とは、熱や水、温風などによって屋根に積もる雪を融かし、雪下ろし作業そのものをなくす住宅のことです。工法や熱源等については、メーカーや工務店でさまざまなものがあるため、降雪量や気温、設置屋根等の諸条件に合ったものを選ぶようにしましょう。

融雪型住宅のメリット

- ・雪下ろしをしなくても自然に屋根の雪が融ける
- ・敷地に余裕がない家に適している
- ・リフォームで対応することができる

融雪型住宅の注意点

- ・融雪装置のメンテナンス費や燃料費等のランニングコストがかかる
- ・融雪した水の凍結によるつららの危険性がある

ここがPoint!

自分の家に適した融雪方法を選ぼう

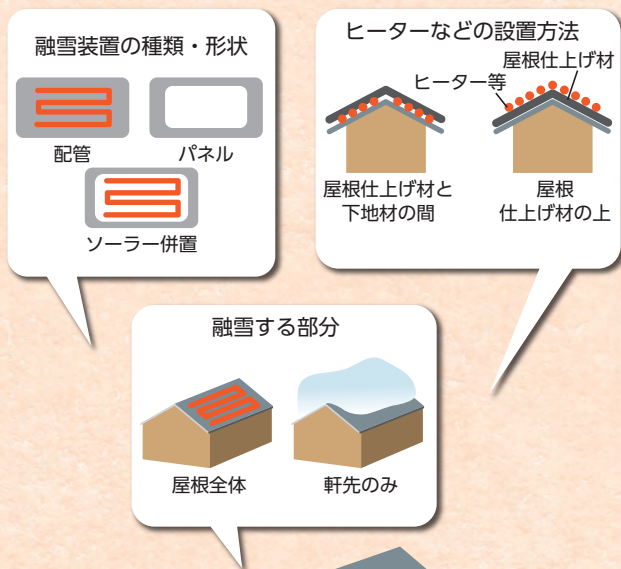
融雪の方法にはいくつかの種類があります。立地条件のほか、設置費用やランニングコスト等をよく吟味した上で決定することが大切です。

・放熱方式

温水や不凍液等を循環させるパイプやパネル、電気ヒーターなどを屋根材の上や下に設置し、放熱によって雪を融かします。

・温風方式

温風機などで暖気を送り屋根裏を温めたり、屋根の仕上げ材と下地材の間に温風を送り込むことで雪を融かします。生活暖房熱の一部を利用する方法もあります。



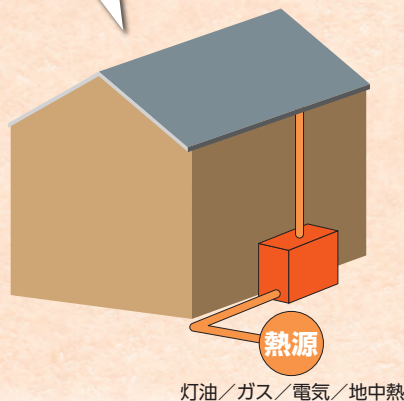
《補助金の対象となる融雪型住宅》

屋根に熱エネルギーの利用による融雪のための措置を講じた住宅

《融雪型住宅の補助》

補助率 ^{※1}	対象工事費の1/5 【高齢者世帯等 ^{※2} は1/4】
補助上限額	60万円 【高齢者世帯等 ^{※2} は75万円】

※1 お住まいの市町村によって、補助制度が異なります。
 ※2 生計の中心となる者が60歳以上の世帯のほか、母子及び父子世帯などです。
 詳細は県および各市町村の要綱でご確認ください。



Case 1

融雪型

氷の落下で危険を感じ 軒先に電気ヒーターを設置 不安が解消されました



◆瓦屋根の積雪が氷に！

落下の危険が悩みのタネ

志賀高原にある企業保養所の管理人を長くつとめてきたYさんご夫妻。若い頃に建てた山ノ内町内の自宅は、ほとんど使ってきませんでした。

65歳で保養所を辞めて自宅に戻りましたが、困ったのは屋根の雪です。積雪はせいぜい50cmくらいと多くはないものの、冷え込みが厳しいのがこの辺り。Y家の屋根はすべて瓦で、積もった雪がなかなか落ちず、軒先で水となって長いつら下がります。そして冷え込みが緩むと、水が一気に道路に落ちるのです。道路の先には地区の公衆浴場（温泉）があつて住民の往来も多いので、危険を知らせる看板を立てたり、屋根に登って氷を落としたりしていました。2階建ての瓦屋根はけっこう高さもあって滑りやすく「命綱をつけて命がけ」だったそうです。

山ノ内町	Yさん宅	リフォーム
工事費用	160万 (うち32万を補助金活用)	

そんなとき、たまたま見かけた工務店のチラシから克雪住宅補助金のことを知り、地元業者に連絡をして町役場に申請し、屋根のリフォームに取りかかります。

◆瓦屋根はそのままに

電気ヒーターを敷設

2018年の春から秋にかけて屋根のリフォームを実施。瓦屋根はそのままにして、庭側を除く3方向の下部（軒先）と雨樋に、遠赤外線電気ヒーターを取り付けました。雪が凍りやすいところに熱を通し、融かしてしまおうという狙いです。

電気ヒーターは付けっぱなしではなく、積雪の様子をみながらスイッチを入れています。昨シーズンの冬は雪が少なかったとはいえ、凍ることもなくつらさもほとんどできませんでした。当然、電気代はかかりますが「安心料と思つて」



使っているそうです。

10数年前には、庭や敷地内に地下水を利用したロードヒーティングを施工し、積もった雪が自然に融けるようになっていきます。屋根に電気ヒーターを取り付けたことにより、雪片付けの手間がほとんど要らなくなりました。



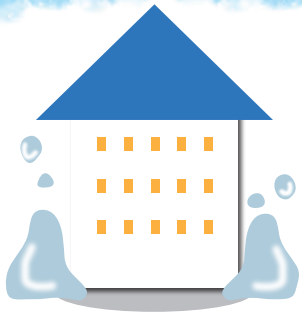
◆知恵と工夫で冬を快適に

多彩な趣味を楽しむ日々

現在はシルバー人材センターに登録しているほか、ゴルフ、スキー、絵画など趣味も多彩なYさん。特にスキーは国際大会の役員をつとめるほどで、長野オリンピックの思い出も多いそうです。「体がきかなくなつた時のために」と始めた油絵も、勤務していた企業のカレンダーに採用されるなど、なかなかの腕前です。

お話を伺つたりリビングにはペレットストーブがあり、これも補助金を利用して設置したそうです。こたつにはガスヒーターからホースで熱を取り込んで、省エネを計っています。天窓からは柔らかな光が射し込み、壁にはYさんが描いた風景画が飾られています。知恵と工夫で厳しい冬を豊かに暮らすYさんご夫妻です。

雪を落として快適に〈自然落雪型住宅〉



自然落雪型住宅とは

自然落雪型住宅とは、屋根に積もった雪を人力ではなく屋根の構造を工夫することで、自然に敷地内に落下させる住宅のことです。新築の場合は、地上階の生活に支障をきたさないよう基礎を高くした高床式で建てる事が多く、敷地に余裕があればリフォームでも対応できます。

自然落雪型住宅のメリット

- ・雪下ろしをしなくても自然に屋根の雪が落ちる
- ・電気代や灯油代などの経費がかからない
- ・リフォームで対応することができる

自然落雪型住宅の注意点

- ・屋根から落ちた雪を貯めるスペースが必要
- ・雪が滑りやすいよう屋根の定期的な塗り替えが必要
- ・落ちた雪の処理が必要な場合もある

ここがPoint!

①屋根の形状に気を配ろう

屋根の形状は「片流れ」または「切妻」とし、複雑な形や突起物はさげましょう。棟上部に雪割をつけた方が、より雪が落ちやすくなります。

②屋根の勾配や塗料を考えよう

屋根の勾配は5.5/10程度以上が望ましいとされています。また雪が滑りやすい屋根ふき材や塗料を使用します。

(塗料は定期的な塗り替えが必要です)

③落雪のための敷地確保はどれくらい

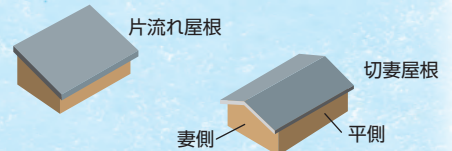
自然落雪型住宅にする場合、落雪した雪の堆積場の確保が必要です。望ましい建ぺい率は30%程度とされています。

(図1参照)

④落雪のための処理方法は

自然落雪型住宅にした場合、落ちた雪の処理方法も検討しておく必要があります。落ちる場所に融雪池を併設することで雪の処理が楽になるなどの方法もあります。

◇望ましい屋根形状



◇雪の落ちにくい屋根形状



《補助金の対象となる自然落雪型住宅》

形状を切妻等とし、屋根勾配、屋根材等についての基準に適合し、落下した雪による危害が生じる恐れのないことを確認した住宅

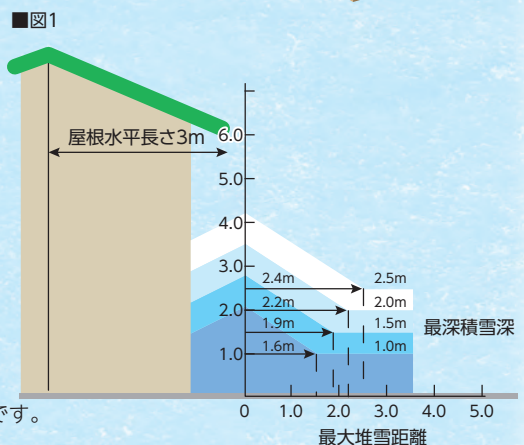
《自然落雪型住宅の補助額等》

補助率 ^{*1}	対象工事費の1/5 【高齢者世帯等 ^{*2} は1/4】
補助上限額	45万円 【高齢者世帯等 ^{*2} は55万円】

※1 お住まいの市町村によって、補助制度が異なります。

※2 生計の中心となる者が60歳以上の世帯のほか、母子及び父子世帯などです。

詳細は県および各市町村の要綱でご確認ください。



出典：中村秀臣「滑落した屋根雪の堆積形状」日本水雪学会誌 1978

Case2

自然落雪型

一人になったのを機に 雪下ろしのいらぬ住宅に 全面リフォームしました



◆ご主人が亡くなり、

心配した息子さんが提案

田園風景が広がる飯山市木島に暮らすWさん。2018年に自宅を全面的にリフォームし、屋根は庭側に傾斜をつけた自然落雪型になっています。

リフォームのきっかけは、2018年1月にWさんのご主人が急逝したことでした。働き者の農家だったご主人のところに嫁いで50年。一男一女の子どもにも恵まれ、ケンカしつつも二人三脚で頑張ってきましたが、ご主人は作業中のケガが原因であっけなく逝ってしまいます。

冬になれば1メートルを超える雪が降る飯山。既に子どもたちは独立して飯山を離れ、屋根の雪下ろしはご主人を中心とした夫婦の共同作業でした。ご主人が亡くなって、この家に暮らすのはWさん一人となり、冬の降雪を心配した息子さんがリフォームを提案。

飯山市 Wさん宅 リフォーム

市役所の担当に相談するなどして、補助金を使って全面リフォームすることになりました。もろもろの手続きはすべて息子さんがやってくれたそうです。

◆庭に落ちた雪を

融かすために追加工事

2018年春から秋にかけて、築45年程の昔ながらの日本家屋だった自宅を、土台を残してすべて作り直す大規模リフォームを行いました。屋根は片側に傾斜をつけ、特殊な素材のトタンで雪が庭に滑り落ちるようになっていました。滑り落ちた雪は、以前から井戸水をホースで庭に流すようにしており、それを利用して融かそうという計画でした。

ところが実際に冬になり、屋根から雪が落ちてみると、井戸水の水量が弱まっていて思うように消すことができません。長野市の息子さん夫妻も駆けつけ、雪片付けを手伝ったそうです。「息子の嫁は九州出身。最初はへっぴり腰だったけど、だいぶ上達したね」と笑います。

そこで今年の夏、新たに井戸を掘って水を揚げるモーターを入れ



替え、パイプを新しくする工事を追加で行い、水は勢いを取り戻しました。「井戸水だから温かいんだよ。大根を洗ったりして」とうれしそうなお主人。

◆一人暮らしの老人にこそ

リフォームをすすめたい

ご主人が亡くなってから農業は縮小し、今は卓球やお花など自分の時間を楽しんでいるWさん。井戸水の配管が新しくなったこれからの冬は、雪片付けの手間も一段と減りそうです。

冬はご近所さんを自宅に招いたり、お宅に遊びに行ったり、もっぱら「お茶飲み専門」とのこと。そこで地域のコミュニティが築けていますが、回りには一人暮らしのお年寄りも多く、雪下ろしのことは心配です。事故を防ぐためにも、雪下ろしがいらぬ住宅へのリフォームの必要性を感じているそうです。



雪下ろしを安全・快適に〈雪下ろし型住宅〉

雪下ろし型住宅とは

雪下ろし型住宅とは、屋根の頂部等に「命綱固定アンカー」と呼ばれる命綱を取り付けるための金具を設置した住宅のことです。積雪時でも命綱の固定がしやすく、移動範囲が広いので、雪下ろしの作業がしやすいことが特徴です。リフォームで設置することができます。

雪下ろし型住宅のメリット

- ・雪下ろしを今までよりも安全に行うことができる
- ・電気代や灯油代などの経費がかからない
- ・リフォームで対応することができる

雪下ろし型住宅の注意点

- ・アンカーがあるからと慢心せずきちんとした装備で雪下ろしを行う
- ・雪下ろしは1人ではやらないようにする

ここがPoint!

①屋根の形状によって種類や位置が異なる

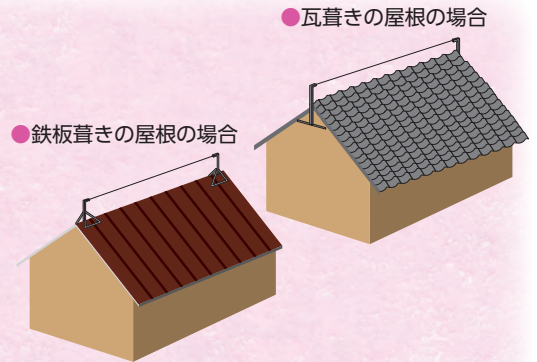
アンカーにはさまざまな形状があり、屋根のタイプによって設置できる種類や設置する位置などが異なります。自宅の屋根に適したアンカーを設置しましょう。

・鉄板葺きの屋根の場合

雪止めアングルを固定する専用の金具を用いて、瓦棒の箇所固定し、支柱と住宅をつなぎます。瓦棒に挟むため屋根面を傷つけることなく固定できます。

・瓦葺きの屋根の場合

瓦屋根の場合は、ボルトやコーチスクリューで構造材である棟木や母屋にアンカーを固定します。漏水の心配はありませんが住宅に合わせた施工が必要なため設置前の調査等に時間がかかります。

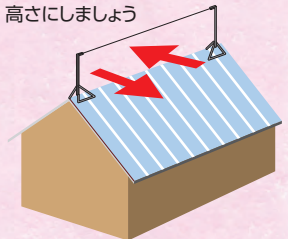


②アンカーの高さは積雪量に合わせて

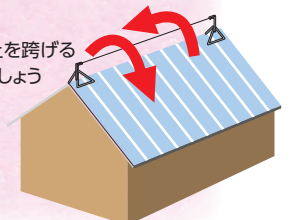
アンカーは、住んでいる地域の積雪量や作業方法によって適した高さが変わります。それぞれの特徴をよく理解した上で自宅に合う高さを決めましょう。雪下ろしを業者に依頼する場合は、あらかじめ相談しましょう。

- ・**高い支柱** 良い点／アンカーが積雪で埋もれにくい
注意点／負荷がかかりやすくしっかりとした構造が必要
- ・**低い支柱** 良い点／目立ちにくく家の景観が変わりにくい
注意点／アンカーが雪に埋もれやすく掘り起こす必要がある

●高い支柱
横桟材の下をくぐる
高さにしましょう



●低い支柱
横桟材の上を跨げる
高さにしましょう



《補助金の対象となる雪下ろし型住宅》

雪下ろし作業の安全対策の向上が図られる命綱固定アンカーの設置等の措置を講じた住宅

《雪下ろし型住宅の補助》

補助率*1	対象工事費の1/2
補助上限額	8万円

※1 お住まいの市町村によって、補助制度が異なります。詳細は県および各市町村の要綱でご確認ください。

Case3

雪下ろし型

大きな屋根の雪下ろしには
安全対策が必須と
命綱固定の支柱を
付けました



◆東京から飯山ヘーターン

雪の多さに驚く日々

陶芸家のご主人と娘さん2人の家族4人で、35年ほど前に東京から飯山に移住したHさん。最初は飯山市の中心市街地に住んでいましたが、約20年前に高台にある現在の家に引っ越しました。

飯山に来たばかりのころは、庭の雪の上に屋根から下ろした雪がさらに加わって、屋根より高くなるのを見て「こんなに積もって、春になったら植物の芽が出るのかしら？」と驚いたそうです。当然、雪下ろしも初体験でしたが、幸いにも「高いところが好き」だったので、ご主人と2人、屋根に上るのは苦痛ではなかったとか。けれども5年ほど前にご主人が亡くなり、ご自身も足の故障があったことから、現在は民生委員を通じてシルバー人材センターに雪下ろしを依頼しています。独立して今は県外に住んでいる2人の

飯山市	Hさん宅	リフォーム
工事費用	19万 (うち8万を補助金活用)	

娘さんにも「危ないからお母さんは絶対やっちゃダメ」と言われているそうです。

◆シルバー人材センターへの依頼を通じて屋根のリフォームへ

Hさんのお宅は屋根の傾斜が比較的ならかなので、落下の危険についてはあまり認識していなかったとのこと。それでも、市役所から克雪住宅助成金の案内が来たことをきっかけに、屋根のリフォームをすることになりました。「シルバー人材センターは『若手』といっても60代。一番年長では80代ですし、なおさら安全対策は必要かなと思って。命綱をつければ下に落ちるといふことではないですから」とHさん。2019年11月に、屋根に命綱を固定するアンカー(支柱)等を取り付ける工事をしました。

2階建てで屋根が大きいこともあり、雪を下ろすには「まず1階の屋根の雪を下ろし、そのあと2階の雪を1階の屋根に、最後にそれを下」と3段階での作業が必要。シルバー人材センターでは何人かのグループを組んで来るそうですが、命綱固定アンカーを付けたことで、今年は安心して依頼をすることができそうです。

◆自然の風景に心癒され

四季を感じながら暮らす

山梨県出身のHさんにとって、大雪が降る飯山の暮らしは大変な

ことも多かったそう。引っ越して来たときは夏で、雪のことはまったくわからず「知らないから来られたんですね」と笑います。「山梨は雪が積もってもせいぜい60cmくらい。かえって遊ぶのにうれしくらいでした」とHさん。今も「やっぱり山梨がいいな」と思うこともあるそうですが、高社山のヤマザクラや若葉の風景や、近くのケヤキの木に雪が積もったときなど、その美しさに心を奪われ「つい写真を撮っちゃいますね」と話します。

Hさん自身も陶芸を続けていて、今も湯呑みや小皿、干支の置物などを作陶しています。敷地内には畑もあって野菜作りも楽しみです。高社山を真っ正面に望む高台で、季節を肌で感じながら穏やかに暮らしています。



Case4

融雪型

融雪型の屋根で 雪下ろし不要に



野沢温泉村 Sさん宅

新築

◆住宅新築に際し融雪型の屋根に

情緒あふれる外湯めぐりやスキーなど、年間を通じて大勢の観光客が訪れる野沢温泉村。Sさんは旅館街の近くで青果店を営んできました。南西に下った中尾地区に持ち家はありましたが、ずっと店舗と自宅を兼ねてきたので、こちらは空き家状態だったと言います。お店を閉店するにあたり、ここにある古い住宅を壊して、新たに住居を建てることにしました。

建設にあたって業者や役場から克雪住宅補助金のことを聞き、屋根を融雪型にして補助を受けました。落雪型より維持費がかかりますが「落雪型だと場所を選ばず、しよ。裏に落ちれば迷惑だし、前に落とせば片付けるのに骨が折れる。人を頼むといっても大変だしね」とSさん。

◆雪下ろしの空いた時間は商売に

2018年早春から工事を始めて9月いっぱいまで引き渡し。トタン屋根の下にヒーターを入れ、電気や灯油よりは利便性の高いガスボイラーを導入しています。

冬になりいざ試運転…という段階でボイラーにトラブルがあり、1月末くらいまで

修理にかかったそうですが、そこからは順調に融雪するようになり、雪下ろしのために屋根に上がることはありませんでした。Sさんは注文販売などの仕事を続けていて、雪片付けの時間が減った分、商売に精を出せると言います。

◆地域資源を守る野沢温泉村の暮らし

野沢温泉村の外湯は野沢組総代以下組員の管理の下で守られてきています。Sさんの自宅がある中尾地区にも外湯「中尾の湯」があり、Sさんも利用します。庭には小さな池があり、それは川の水が流れてきているのだそうです。田んぼを潤し、雪を消してくれる「水」も大切な資源なのです。「川の水が涸れないように、山へ行って水源から掃除してくるんだよ」とSさん。昔から地域の資源と人のつながりを大切にしてきた、野沢温泉村の暮らしがそこにありま



Case5

自然落雪型

雪下ろしに 危険を感じ 落雪型の 屋根にしました



飯山市 Iさん宅 リフォーム
工事費用 312万
(うち42万を補助金活用)

◆安全最優先で屋根のリフォームを決断

農家の次男に生まれ、実家を出て会社勤めをしていたIさん。結婚を機に実家に戻り、家を守ってきました。敷地内には3つの建物があり、雪が積もればそれらの屋根の雪下ろしはIさんの仕事です。「長野市の人は雪で遊ぶことを考えるでしょうが、こちら辺の人は雪下ろしのことでも頭がいっぱい」と笑います。

ここに暮らし始めて約30年。ご自身も高齢になってきて、屋根に上った雪下ろしの作業に危険を感じるようになりました。数年前から「なんとかしたい」と思っていたところ、飯山市の広報で克雪住宅補助金のことを知ります。さっそく市役所に相談に行き、知り合いの工務店に依頼してリフォームをすることになりました。

◆屋根の角度をつけるため大工事に

2018年の10月から11月にかけて、屋根を落雪型にする工事を実施。工事に先立って見積書や図面を持って市役所に何度も足を運び、指導を受けました。

当初はこれまでのトタン屋根の角度を活かし、前後に付け足すような形を取りた

かったのですが、克雪住宅の基準に合わないため、古い屋根の上に新しいトタン屋根を乗せて角度をつけることに。高く大きな屋根は玄関先をまたいで前に出さざるを得なくなりました。屋根を支える柱を新たに2本建てるなど、工事も大がかりになったと言います。

◆仕事に興味に充実の日々

リフォームを行ってから、自宅の屋根の雪下ろしはする必要がなくなりました。ほかに建物が2つあり敷地も広いので、まだまだ雪下ろしや片付けの手間はかかりますが「それでも楽になりました」とIさん。会社を定年退職してからは、地域の役員などで忙しくしていましたが、最近はずっと出てきたので、半日、近くの会社に通いに行き、空いた時間はスポーツジムに通うなど趣味に利用しています。「雪下ろしの時間が少なくなり、ジムにも通いやすくなりそうです」と笑顔でした。



Case6 自然落雪型

燃料代節約のため 落雪型の屋根に



栄村	Kさん宅	リフォーム
工事費用	179万	(うち35万を補助金活用)

◆燃料費節約で融雪型から落雪型に

日本有数の豪雪地・栄村の山あいに、ひととき存在感を放つ築200年以上の日本家屋。Kさんはこの家に奥様と95歳の母親、息子さんの4人で暮らしています。母屋の大きな屋根はもとも茅葺きで、40年ほど前にそこに瓦屋根風のトタンをのせて、落雪型の屋根にしました。

母屋から玄関先に突き出たような建物の屋根は、昨今の灯油代の値上がりから融雪型でなく「落雪型にしたい」と地元建設業者に相談。業者から補助金が出ることを聞き、リフォームすることになりました。補助金に関することは申請からすべて業者に任せて、助かったと言います。

◆大雪の朝は4時から除雪

落雪型の屋根の場合、落ちた雪を片付けなければなりません。Kさんのお宅の場合、母屋の大屋根の分を合わせると大変な量の雪になります。栄村内でタクシートの運転手をしているKさんは、雪が降れば朝4時前には起きて、除雪をしてから出勤します。玄関先を落雪型にしたことで、除雪の手間は増えましたが「除雪車があれば元気なう

ちは大丈夫。それより灯油代がかかる方が大変だった」と言います。

◆古民家で雪とともに暮らす

200年以上にわたり、この家に住み続けてきたK家。太い柱が支える家は、長野県北部地震の揺れにも持ちこたえたそうです。「食器などは落ちたりしたのですが、驚いたことに神棚からは物が落ちなかったんですよ」とKさん。昔は冠婚葬祭をみんな家でやっていたから賑やかだったよ」とおぼあちゃんが語るとおり、大勢のお客さんが入れる間取りではありますが、今は家族4人生活するだけの空間を確保して上手に暮らしています。



雪片付けも生活の一部。とはいえ、3メートル以上も積もるとなかなか手強い存在です。Kさんは「今年も小雪を望みたいね」と冗談っぽく言いました。

Case7 雪下ろし型

落下の 危険防止のため アンカーを設置



飯山市	Fさん宅	リフォーム
工事費用	20万	(うち8万を補助金活用)

◆一晩で1メートルの積雪

飯山市静間。スーパーやホームセンターが建ち並ぶ国道117号線から西の山側に向かい、JR飯山線の線路の先にFさんのお宅があります。国道からは歩いて15分程度ですが、線路を越えると急に雪が深くなるといいます。「降るときは一晩で1メートルくらい。雪の重みで窓も開かなくなります」とFさん。4〜5年前まではご自身で屋根に上がって雪下ろしをしていたそうですが、高齢になり今は人に頼んでいます。

◆人に頼む以上、安全対策は必須

そんな中、飯山市から克雪住宅補助金の案内をもらい「人に下ろしてもらおうだから、安全対策はちゃんとしな」と、2019年10月に屋根を「雪下ろし型」にリフォームしました。この方法は屋根に「アンカー」と呼ばれる命綱を固定する支柱を設



置するもので、比較的安価で工事期間も短く済みます。Fさんのお宅も4日ほどで工事が終わりました。支柱の高さは110cm。見た目は「高いな」と感じますが、雪が積もっても埋もれないように、ある程度の高さが必要なのです。

リフォームをして初めての冬。命綱をつけると動きが制限されるので「嫌がる人もいるかも」と奥様。ご主人は自分でも落下の経験があるそうで「いくら気をつけていても、ちよつとしたことで落ちてしまう。だから対策は必要」と話します。

◆雪とともにある飯山の暮らし

Fさんご夫妻は結婚して40年以上。85歳を超えてお二人ともお元気です。部屋には奥様が趣味で作ってきた多くの人形が飾られています。ともに飯山育ちで、子どもの頃はもつと雪が積もったそう。2月の寒中休みはずつと雪下ろしを手伝ったと言います。最近では雪が少ない傾向が続いています。「やっぱり冬の飯山は雪が降らないとスキー場や除雪の仕事にも影響するし」とFさん。雪とともに暮らしてきたFさんならではの言葉です。

克雪住宅 補助金申請の流れ

この補助金は克雪住宅の整備により、雪下ろしの負担低減及び雪下ろし作業中の転落事故を未然に防止することを目的としています。

補助金の交付にあたっては、県及び市町村の補助金交付要綱に基づき手続きを行う必要があります。詳しくは問い合わせ先担当窓口へご連絡ください。

STEP1

克雪住宅の検討

- ・ 冬季の雪下ろしに不安を感じたら、克雪住宅を検討してみましょう。
- ・ P5のチャートを使って、あなたの暮らしにあった克雪住宅を確認してください。
- ・ 工事を行う工務店等の業者に、工事方法、費用等について相談しましょう。
- ・ 市町村窓口で、手続き方法、補助金の額等、補助制度の説明を受けましょう。

留意点

- ・ 対象となる住宅は、自ら居住または所有する住宅(居住部分の床面積が延べ床面積の1/2以上の併用住宅含む)です。
- ・ 自然落雪型については、屋根勾配、屋根材についての基準があります。



STEP2

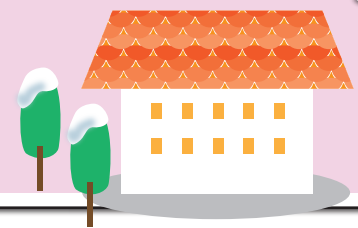
補助金の申請

工事内容等が決まったら、交付申請を行います。

- ・ 申請先は市町村担当課窓口になります。
- ・ 申請に必要なもの
交付申請書
工事個所、工事内容が分かる図面
工事費見積書、現地写真
誓約書、住民票、納税証明書 等
- ・ 基準への適合が確認されれば、補助金の交付決定が通知されます。

留意点

- ・ 冬季は工事が困難になります。工事期間を見込み、余裕を持った申請を行いましょ。



お問い合わせ先（住宅が所在する市町村または県建設事務所建築担当課）

市町村名	担当窓口	電話番号
飯山市	移住定住推進課	0269-62-3111
白馬村	建設課	0261-85-0724
小谷村	観光振興課	0261-82-2585

市町村名	担当窓口	電話番号
高山村	建設水道課	026-214-9297
山ノ内町	総務課	0269-33-3111
木島平村	建設課	0269-82-3111

STEP3

工事の実施

- ・ 交付決定の通知を受けたら、契約し工事を進めましょう。(交付決定通知を受ける前に着手はできません。)
- ・ 工事内容に変更が生じた場合は、変更申請が必要になります。
- ・ 申請通りの工事が完了したら、業者に工事費を支払ってください。

留意点

- ・ 業者とよく打合せを行いながら工事を進めましょう。特に居住しながらの工事の場合は、事故の無いよう工事範囲を確認しましょう。
- ・ 申請者への補助金の支払いは、事業完了(業者への支払いが終わった時点)後となります。

STEP4

補助金の受領



- ・ 事業が完了したら、実績報告を行います。
- ・ 提出先は市町村担当課窓口になります。
- ・ 実績報告に必要なもの
実績報告書
工事写真、工事に係る領収書の写し
- ・ 申請通りの工事が完了が確認できれば、補助金の額の確定が通知されます。
- ・ 補助金請求書を提出し、補助金が支払われます。

留意点

- ・ 実績報告は、事業完了後30日以内に行う必要があります。

市町村名	担当窓口	電話番号
野沢温泉村	建設水道課	0269-85-3113
信濃町	建設水道課	026-255-6821
栄村	産業建設課	0269-87-3113

建設事務所名	担当窓口	電話番号
大町建設事務所	整備・建築課	0261-23-6524
長野建設事務所	建築課	026-234-9530
北信建設事務所	建築課	0269-23-0220



長野県北信建設事務所

〒383-8515 長野県中野市大字壁田955
TEL.0269-23-0220 FAX.0269-28-0770